

外海地区の公共施設のあり方を考える市民対話《かわら版》

❀ 第1回 開催報告 ❀



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 平成29年11月23日(木) 13:00~15:00

場所 外海ふるさと交流センター

参加者 地域の皆さん 約20人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても暮らしやすいまちであり続けるために、外海にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

はじめに いま起きている“変化”と状況

長崎市から、人口減少社会の到来や、少子高齢化の進展など、「いま起きている“変化”と状況」についてお話ししました。

施設が古くなってきている

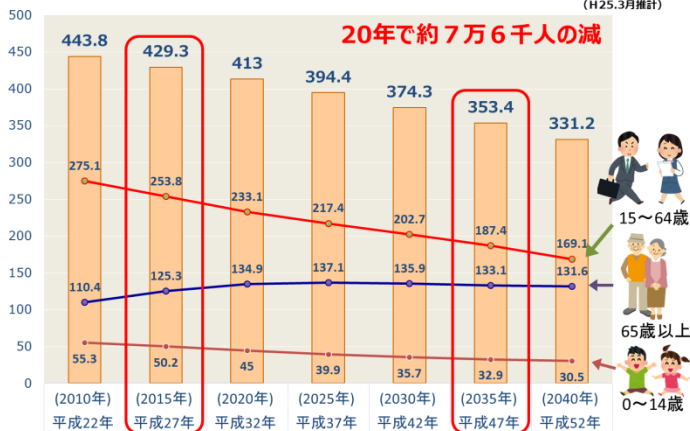
- ・市の施設のうち、全体の半分以上が築30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・修理や建替えの時期が一斉にやってきます。

人口減少・少子高齢化が進んでいる

- ・長崎市の人口は、今後20年間で約7.6万人の減少が予想され、施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・15~64歳のいわゆる「働く世代」の人口が大きく減少して税収が減少することが予想されます。
- ・今後も少子高齢化が進み、福祉や医療にあてる費用が増えることが予想されます。
- ・このため、公共施設の修理や建替えにあてるお金は少なくなっていく予定です。

<人口の将来予想>

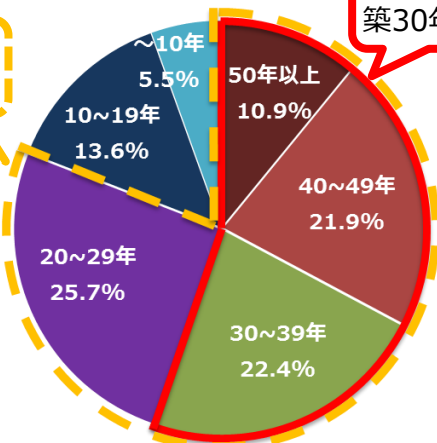
資料：国立社会保障・人口問題研究所 (H25.3月推計)



<築年数と施設の量(床面積)>

80%以上が築20年以上

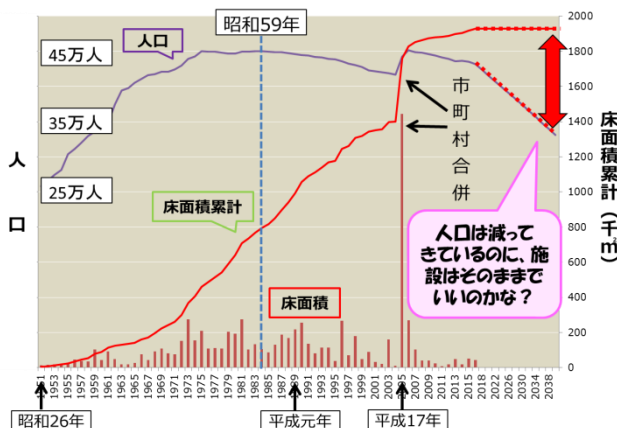
半分以上が築30年以上



人口は減少しているのに、施設は多いまま

- ・長崎市の人口(紫の線)は、昭和59年をピークに減少していますが、施設の量(赤の線)は増え続けています。
- ・今ある施設を全て持ち続けることが必要でしょうか？

<施設の面積と人口の移り変わり>



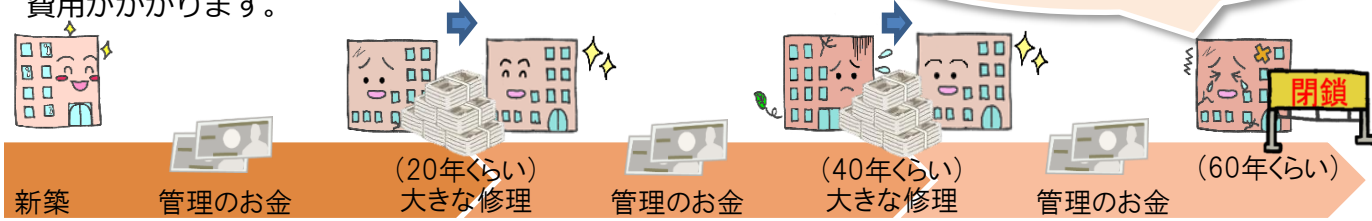
はじめに 時代の変化に対応できる公共施設の見直し

長崎市から、「いま起きている“変化”と状況」に伴い、なぜ公共施設のあり方を見直す必要があるのかお話ししました。

ところで…

建物の生涯では、どんな費用がかかるかご存知ですか？
建物を建てて、使わなくなるまでにはおおよそ次のような費用がかかります。

建物は建てる時だけでなく修理や管理にもたくさんのお金がかかるんだ。
一般に建設費の3~4倍のお金が、維持管理から解体までにかかるといわれているよ。



公共施設を取り巻く時代の変化

長崎市の人口は、20年後には18%も減少すると予想されているんだ。

人口減少

少子高齢化

64歳以下の人口は大きく減っていった、税収(市の収入)が減っていくよ。

公共施設の
利用者の減少

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

なのに

公共施設の量は
増え続ける

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

公共施設はこのままでいいのでしょうか？

人は減っていくのに、施設の量はそのままだと、使われない施設が増えちゃうね。

市の施設の半分以上が、築30年以上で老朽化しているよ。これからますます修理の費用がかかるよ。

長崎市が

『人口が減っても、暮らしやすいまち』であり続けるために
今、公共施設の使い方の見直しが必要です！

グループ協議①

施設の「見直し」を考える

見直しの必要性を共有したうえで、施設の見直しについて考えました。

○どんな施設を見直すべきか。(例：利用されていない、老朽化)

○どんな取り組みができるか。(例：集約、移転)

を、書き出ししながら、協議しました。



公共施設のかしこい見直し方

長崎市から、どのように公共施設を見直していくかについて、お話ししました。

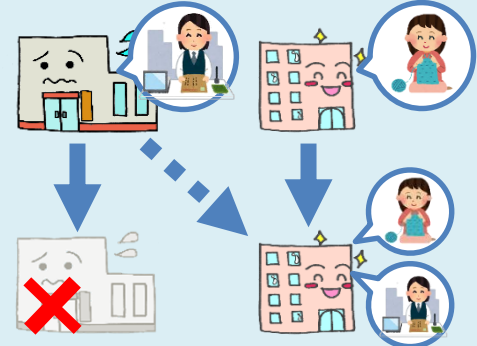
まず大切なことは…

施設を見直すことは、行政サービスを無くすことではありません。



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を見直すということです。仮に施設が減っても、そこで担っていた、生活に必要なサービスを無くすことではありません。

<工夫した使い方の例>



建物は減っても… サービスは残る

公共施設を見直す時の視点

公共施設の使い方を見直す時には、次の7つの視点で考えていきます。

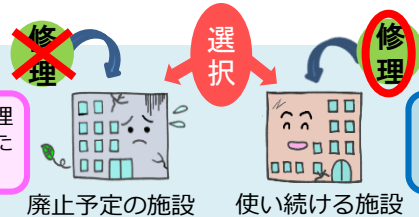
建築年数や修理の状況 	地震に強い建物か 	使っていない部屋はないか 	よく利用されているか 	バリアフリーに対応しているか 	同じような使われかたをしている建物がないか 	修理などにお金が掛かりすぎているか
----------------	--------------	------------------	----------------	--------------------	---------------------------	-----------------------

見直しの手法

見直しには、大きく3つの手法があります。

手法1 施設を選んで、使い続ける
施設はしっかり管理！

廃止予定なのに修理をするのは、もったいないね！



安全で安心して利用できる施設管理に努めます

手法2 ゆずりあいと工夫

● いっしょに使う ●
● 時間をやりくり ●
● 片づける ●

工夫することで建物が減っても活動は続けられ新たな交流も生まれます。

手法3 新たな財源を確保する

- ◇使っていない土地を売ったり、貸したりする
- ◇民間と連携・協力し、より良い行政サービスを効率的に提供する

グループ協議②

施設の利用状況を確認

地域の公共施設をどのくらい使っているか、あらためて振り返りました。

- ①施設の名前
- ②どんな目的で利用しているか。
- ③利用の頻度（週に1回、月に1回など）

を、書き出しました。

見直す施設を考える

これまでの長崎市からの話や、「グループ協議①」で協議した内容を踏まえ、地区にあるどの施設を見直すべきか、意見を出しあいました。



各班から発表いただいた主な内容です。

- ・古い施設、危ない施設は見直すべきで、歴史民俗資料館はその対象になるのではないかな。
- ・他にも古い、危ない施設があれば、使われていない耐震性がある施設に機能を集約しては。
- ・ただし耐震性があっても、築年数が古い場合もあるので慎重な検討が必要。

1班



- ・今後、施設の見直しはどうしても必要になるのではないかな。
- ・実際には、要らない建物は解体する必要があると思う。
- ・まちづくり記念館はボランティアガイドが使っているが、地元の雇用のために、工芸品などを販売する場所として活用できないかな。

2班



- ・観光施設に注目したが、利用状況を見て、本当に必要な施設なのか考えないといけないのではないかな。
- ・世界遺産化に向けては、バリアフリー化や大型バス駐車場の確保が必要。
- ・今後、遊休資産となる黒崎中学校の建物の活用も検討が必要。

3班



- ・市の組織再編に伴い、地域センター2階の事務所部分が空きになっているので、そこを使って宿泊部屋を増設してはどうか。
- ・旧神浦中学校校舎の活用を考えないといけない。
- ・旧外海行政センター庁舎も活用されていないので、整備か見直しが必要。

4班



【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生）

参加者の皆さんから、施設の集約・複合化や、企業との連携というご意見が出ていましたが、これはすごく大事な考え方です。公共施設は、管理者である市や、その施設がある地区だけのものではなく、市民全体のものでもあります。その使い方を市と市民が一緒に考え、見直しを検討していくことが一番重要なことだと思います。

今回の対話では、施設を見直す時の視点や、どのような取り組みができるかを考え、見直すべき施設をイメージしていただきました。



次回の対話では・・・

長崎市の公共施設の**基本的な配置の考え方**をお示しし、第1回で出された意見を参考に、市の方で検討した**施設のあり方の見直し案**をお示ししたいと考えています。

それに対する皆さんのご意見をお聞かせください。

次回の対話

第2回 日時：平成29年12月17日（日） 13:00～15:00

場所：黒崎地区公民館 ※第1回目とは場所が違います！！

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）